

# つっかいぼう通信 第72号

編集／特定非営利活動法人障害者自立センターつっかいぼう

〒502-0843 岐阜市早田東町8丁目4番1 パセール長良1F3号

Tel 058-215-7374 / Fax 058-296-5343

発行／2011年 12月10日

平成24年4月開所予定 「ビー・カンパニー」



西側からの完成イメージ図



北側からの完成イメージ図

## 作業所建設 **着工です!**

作業所の建設は入札準備等を行っていましたが、11月に入ってやっと建築許可が出ると、8日には現場説明会、24日入札と一気に進みました。補助金の関係と来年4月に特別支援学校を卒業する人の受け入れがあることから、今年度中に完成しなければなりません。建設事業者が決定するとすぐその後の予定を話し、僅かに小雨の降る11月25日、建設業者さん、設計事務所の方、つかいぼうと「つながり亭・バリエーション」総勢約30名で地鎮祭を行いました。神主さんの祝詞（のりと）の後、工事の安全を願って一人一人が榊を捧げ、その後神棚を背にして記念写真を撮り無事終了しました。全員参加は出来ませんでした。なるべく多くの仲間に参加してもらい、自分たちの作業所の立ち上がりから完成を見守っていきたいと思っています。

この後一部の人が残る地域の方々へのあいさつ回りに行きました。工事でご迷惑をかける近隣の方がた以外に町内の範囲約100軒以上にチラシをポスティングしました。地域に作業所の存在を知ってもらい関わりを作っていくためにこれからも定期的に地域へビラを捲いていきたいと思っています。

この後、28日から本格的に着工、建前が12月26日で、工期は2月29日までを予定しています。

ところで、今回新設する施設では「就労継続支援B型事業」を行います。この事業はこれまでの作業所に近い形態で利用者との雇用関係は結ばず、工賃も最低賃金額の保障は無く、平均月3000円を割らないことが条件ですが、より高い工賃を目指します。

定員は30名、作業所の名前は「ビー・カンパニー」です。

ビーと言うのは、英語のbe「存在する」「である」という意味です。存在すること、自分の状態を「～である」と述べ、「障害を持って生きる、障害のある自分を否定するのではなく肯定ししっかりと存在する」とやや思い入れを持って解釈しました。そしてもう一つミツバチのbee。カンパニーは「仲間、人の集まり、会社」という意味です。みんなが集まり働く場です。朝早くから羽音を立てて賑やかに楽しく自然と共に働きます。4月には開所予定です。今回は建物の紹介をしたいと思います。



# 「人間福祉学会2011」に参加して

今年の学会のテーマは「いのちと暮らしと人生をトータルに支える」で、一日目は「自殺の防止 死から生への選択を支援する」、二日目は「障害者制度改革 人間らしく・自分らしく生きるを支援する」をテーマに講演やシンポジウムが行われました。私は外部実行委員として2日目の「障害者制度改革」のフォーラムに係わらせていただきました。

このところ厚労省の資料のような仕事に即必要なもの位しか読まない（気が焦って他が読めない）貧しい生活と言うか精神の私には、広く深い知識や知恵に裏打ちされた広い視野の講演が聞けて大変充実した一日目でした。内容的には普段思い悩むことから離れたテーマではなく、この先の世界はどうなるのか不安が大きい中、カン・サンジュンさんの「触媒型人間の存在」にまた希望を抱き、私はやはりもしかしたら「(自分では思っていないのに、時々言われる) 能天気」なのかもしれないとも思いました。それにしてもカンさんの人気はすごかった。

「自殺」については、初めてまとまった話を聞いた。年間 3 万人の人が自死する、12~3 年で岐阜市から人が消え去り消滅する。個人の問題ではなく社会問題として、身近な問題として強い関心を持たなければいけない。会場にライフリンクの自死された方の写真と至るまでの歴史が書かれたパネルの展示があったが、一人目の方を読んだだけで胸がいっぱいになりそれ以上読めず、結局読めずに終わり後悔している。

平成 21 年、「障害者権利条約」の締結に必要な国内の法律の整備を始めとする障害者に係る制度の集中的な改革を目的として「障害者制度改革推進本部」が設置されその下に「障害者制度改革推進会議」（55 人の委員中半数近くを障害当事者や家族が占める）が発足した。23 年 8 月には、自立支援法に変わる障害者総合福祉法の骨格に関する提言が 8 月に出された。24 年法案提出、25 年 8 月までに施行の予定で急ピッチの作業が続けられている。

学会 2 日目、障害当事者参加の「障害者制度改革フォーラム」では骨格提言の中からポイントとなるテーマを基に指定発言と会場からの発言で今の制度の問題点や人間らしく生きようとする時に生ずる障壁等が多く上げられ、午後からのシンポジウムでは制度改革の様々な課題が話された。シンポジウムでは、骨格提言の提出後は国内の何か所かでフォーラム等を開き周知と共に議論を起こす予定であったが時間の関係で出来なかったとの発言があった。

障害者総合福祉法の目指す 6 つのポイントは【1】障害のない市民との平等と公平【2】谷間や空白の解消【3】格差の是正【4】放置できない社会問題の解決【5】本人

のニーズにあった支援サービス【6】安定した予算の確保で、非常に重要でぜひとも実現してほしい所である。提言通りの法律は出来るのか、骨抜きにならないか、絵に描いた餅になってしまうのではないかの大きな心配があるが、そうならない為にこの提言を広めより多くの当事者や関係者らとの学習を早急に計画しなければと強く焦っています。当事者が声を上げ、障害者制度改革が中央で・地域でどのようにすすんでいくのかしっかりと見ていかないと！その節はぜひご参加ください。(文責 吉田)

## 第 12 回人間福祉学会に参加して

後藤 篤謙

非常に濃い 2 日間を過ごさせていただきました。2 日目の障害者制度改革フォーラムでは、当事者の一人として意見発表もさせていただきました。私は重度障害者の立場から、合理的配慮についてお話をさせていただきましたが、このフォーラムを通して合理的配慮とは何かを改めて学ぶことができました。そして、それがきちんと制度に盛り込まれ、一般市民の皆様にも正しく理解され、差別のない誰もが住みよい社会にしていくためには、やはり私たち自身が声を上げ行動していくことが大切であると思いました。

日々仕事に追われていると、活動というよりも業務をこなしているという感覚になってきて、当事者としてもっと考えるべきことや取り組むべきことをつい忘れてしまいがちです。こういう集会に参加すると、「そんなことではいけないぞ！」と自分自身にカツが入りますね。



## 五回目の辰君

山内ゆきゑ

圧迫骨折を受け  
お風呂に入れなくなった。  
何事もスローモーション人生を歩んでいる自分だけ  
ここでちょっぴり障害が加速しただけ。

訪問入浴に来て下さった看護師さんが自分に  
気持ち良いですか  
とゆっくりとした語り口で話し掛けられて来た。

「あっ!そうか  
年が明けたら  
五回目の辰君が、  
また会えたね!」  
と声をかけて来るもんね。  
まいった!

五回目の辰君かあ? ならば私はあと2年で五回目の午君だな。  
変ったね、おぬし。最近どっしりしているよ。(体重でなくて…! )  
ものわकारいのいいバアサンにはならんぞ! って最近思ってるよ、私。

## 本荘地区の「災害時要援護者避難支援訓練」に参加して

去る10月29日土曜日、本荘校下で「要支援者を避難させる訓練」が行われた。どんな風に行なわれるのか実際に体験したいと思ったこと、立ち遅れている要援護者の避難対策に何か役立てればと思ったこと、私たちの作業所や居宅介護の事業所の利用者さんへの対応を考えなければいけない事などから、参加させていただいた。

大雨が降り続き川が警戒水位を超えたので一帯に避難警報が発令された。私は市民病院に通院していてそのことに遭遇し土砂降りの中避難することになったという設定。

吉田とヘルパー2名。その他視覚障害者の役の人と支援者2組、校区にある高齢者グループホームから車椅子の方と職員の1組、合わせて4組9名は市民病院裏側に既に集合していたが、8時30分、訓練放送を聞いて避難所に向けて出発する。

避難場所の本荘中学校体育館は歩いて5分もかからない場所だったが、まったく付近の地理が分からない私達はゆっくり皆の後をついて行った。

避難経路の危険箇所を点検しながら行ったが、市民病院裏出口は一部を除いて車椅子の前輪が落ち込む幅のグレーチングがあった。また本荘中学校門には丸石がデコボコに敷き詰めてあり車椅子では非常に歩きにくい。体育館の入り口は緩やかなスロープがあり出入りは楽だものの出入り口にはまた目の粗いグレーチングが敷いてあった。激しい雨の中、水たまりが出来、足元が良く見えない状況で急いでいたら、あるいは車椅子の介助に不慣れな人が押していたらきっとグレーチングや小さな段差に前輪を取られたり転倒するなどかなり危ないだろうと思った。こういう時こそバリアフリーの大切さを感じる。また、要援護者自身も人に頼らず普段から雨具、固定ベルト、コミュニケーションのためのボードやメモ帳、電源確保のための道具など自分に必要な用意を心掛けねばいけないと思った。

今回、私達は外の集合場所からの訓練開始だったので放送を聞きすぐにスタート出来たが家の中から出てくる想定だったらさぞかし時間がかかったことだろうと思った。避難場所が近くなるにしたがって人が増え校門付近には様々な係りの方が待機しておられた。

体育館内には「支部ごと」と「その他」に分かれて受付があった。私たちは「その他」に案内され、カードをもらい、氏名と障害についての情報なのか「車椅子」と記入した。「その他」が一番混んでいたのと、はじめ自分がどこで受付をしていいのか分からず少し手間取った。館内は支部ごとに指定された場所がありそこで待機した。

椅子や毛布が少しあったが多くの人には床に座っていた。暖かな日だったが館内は冷えてきてあちこちで寒いと言う声が聞こえた。私も厚着をして行ったがだんだん寒くな

った。が寒さよりトイレのことが気がかりだった。障害者用トイレは無いかも知れないと思い前日から水分を取らないでいたがやはり正解で和式トイレしかなかった。洋式トイレでも介助が必要な自分が、和式トイレが利用できるだろうか、仮に使えたとしてもどれだけの人手がいるだろう、家族の手だけでは絶対無理だ。体育館の前の公園には障害者用トイレがあったが、激しい雨の中、容易ではない。本当に避難した場合の大変さをリアルに感じた。避難所では車椅子に座っていたが、ちゃんと休みたい時は降りたいと思うし長時間乗りっぱなしはかなりきつい、しかし移動するのであれば乗っていなければならない。車椅子への移乗もその度にかんりの人手を借りねばならず、私はどうしていればいいのか。誰もが疲れきりストレスが高まっている中、私はここで暮らすのは想像以上の厳しさがあるだろう、ここにはいられないかも知れないと思った。短い訓練の中で想像するだけでも、果たして避難自体をするかどうかを悩んでしまう。しかし仮に避難せずに家にいる場合は情報や救援物資を得るのは困難になってしまうのだろう。身体障害だけでなく、人工呼吸器使用者、精神・発達障害・知的障害など一般の避難所での生活のし辛さを抱えた人は多い、二次避難所への搬送とそこでの対応の質の確保が大切だ。

本荘地区では防災意識が高く、「本荘自主防災隊ボランティア救助チーム隊員養成講座（全8回講座）」を開いておられ今回の訓練は第2回目の「災害時要援護者避難支援訓練」で岐阜県・岐阜市との共催であった。昼間の大雨及び洪水を想定し、本荘地区の一部の地区を限定し①避難準備情報発令に伴う災害時要援護者の避難支援訓練 ②避難所における避難確認及び未避難者に対する安否確認訓練が行なわれた。

自治会は（仮）要援護者に対し避難支援を行って避難所に向かい、避難所では災害時要援護者名簿とマップで避難しているかどうかの確認を行なう。GISが活用され、地域の要援護者は全員が地図上にマークされ避難が完了するとプロットが消去されていき、到着していない要援護者の情報が「総括情報部」から「災害時要援護者部」に提供され、「災害時要援護者部」は避難支援が必要な要援護者の様態に応じた機材で避難支援・安否確認に向かう事等、担当者による訓練が着々と行われていた。視覚障害や聴覚障害、妊産婦等要援護者の疑似体験とダンボール製の間仕切りの体験も行われた。畳2畳分の底板と畳半分の高さの側板で周囲を囲むもので、表に張る名札には5名の名前が書けるようになっていた。座っていれば間仕切りの中と外は互いに相手は見えないが立つ人からは間仕切りの中は容易に見える。もっと高さがある方が良いように思った。大きさ（広さ）も変えられるものと良いが強度に問題が出てくるのだろうか。価格が一万円で高額であると思うのは私だけだろうか。

カセットガスボンベ使用の発電機「エネポ」が置いてあり幅広い対応が考えられてい

た。ポータブルトイレなども置いてあると良いと思った。

避難完了後、大きなマップを使って避難経路の危険箇所や支援体制について支部ごとに意見交換した後、全体発表を行なったが、中学校区は広すぎてかなり遠くから来る人もあり身近な避難場所が必要、障害者用トイレなどバリアフリーの問題、全員が避難した場合には詰めて座っても体育館の8割が埋まり大変狭い等より良い防災体制の構築に向けた活発な意見が出ていた。部外者ながら参加させていただきとても良い体験ができた。要援護者として地域にこういう試みがあるのは大変心強くうらやましく、一日も早く全自治会に広がって欲しいと思う。以前、「このような取り組みがうまく機能するにはまず地域の誰もが顔のわかる親しい関係になることが大切、その第一歩として地域の交流活動を大変熱心に行っている」と言われた自治会長さんお話しが印象的だった。(文責 吉田)

## 編 集 後 記

今年最後の通信となりました。今年も沢山の方にお世話になりました。ありがとうございました。心より感謝致します。

来年早々、久々に新年会を企画しました。人と人の繋がりを作る事、繋がる為の場や企画を作る事をやりたいと思います。言い古され気味ですが改めて「絆」を作り大切にしたいです。どんな弱い人も手放さない、横並びで温かな、支え合う「絆」を作りたいと思います。

「ニューイヤー交流会」友人・知人・家族・・・、お誘い合わせの上、食べて・しゃべって・遊んでみんなで楽しく一日を過ごしましょう。

参加については、つかいぼうまで、お気軽にお問い合わせください。

昨年は何と言っても東北を襲った大地震と津波、そして原発事故。癒しようのない悲しみと何時消えるともわからない不安。本当に多くの課題が与えられ、これ乗り越え新たな地域の有り様を再構築しなければ一歩が踏み出せないですね。

風評でもなく、放射能の問題は逃げたり避けたり差別したりされたりしてる場合でなく、誰にとっても身近な自分の問題になってきているような気がします。問題の根本に目を向け、社会的に解決する事、個人的に地道にやれることに磁力したいものです。お互いに、来年は今年よりずっと良い年でありますように。